

道徳の時間の指導内容の重点化における配慮は何か。

今日の問題状況や生徒の実態等に即した指導がより一層充実し展開できるよう、「生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること」を示した。

(「第3章道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の1)
 (3) 各学校においては、生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること。特に、**自他の生命を尊重**し、規律ある生活ができ、自分の将来を考え、**法やきまりの意義を理解を深め、主体的に社会の形成に参画**し、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けられるにすることなどに配慮し、生徒や学校の実態に応じた指導を行うよう工夫すること。
 また、**悩みや葛藤等の思春期の心の揺れ、人間関係の理解等の課題を積極的に取り上げ、道徳的価値に基づいた人間としての生き方について考えを深められるよう配慮**すること。

指導内容の重点化にかかわっては、特に「自他の生命を尊重」することや、「法や決まりの意義の理解を深め、主体的に社会の形成に参画」することを新たに配慮すべきこととして示した。また、思春期にある生徒の発達の段階を考慮し、「悩みや葛藤等の思春期の心の揺れ、人間関係の理解」等の課題を積極的に取り上げ、「道徳的価値に基づいた」人間としての生き方についての考えを深めることを改めて配慮すべきこととして示した。

1 重点的に指導する内容

どのような内容を重点的に指導するかについては、最終的には、各学校において生徒や学校の実態を踏まえ工夫するものであるが、社会的な要請や今日的課題についても考慮し、次のような配慮を行うことが求められる。

今日的な課題を踏まえれば、中学校においては、小学校と同様に、

- ① 生徒の自立心や自律性
- ② 生命を尊重する心
- ③ 規範意識
- ④ 社会参画への意欲や態度
- ⑤ 国際社会に生きる日本人として自覚

などの内容を、生徒の発達の段階や実態に応じて重点化して取り組む必要がある。

それと同時に、「人間としての生き方についての自覚」は全学年を通じ、学校教育のあらゆる機会をとらえて指導することとするとともに、すべての内容項目が、「人間としての生き方についての自覚」とかかわるように配慮しながら指導する必要がある。

2 重点的に指導する内容の詳細

生徒の自立心や自律性を育成する

現実から逃避したり、今の自分さえよければよいといった「閉じられた個」ではなく、自己と対話を重ね自分自身を深めつつ、他者や社会等とのかかわりの中で生きる自制を伴った「開かれた個」の確立が重要である。そうした観点から、地域の大人や異年齢の子もたちとの交流、体験活動などを生かすなどして生徒が自己を深く見つけ、生徒の自立心や自律性を育成する取組が求められる。

自他の生命を尊重する心を育成する

人間としての生き方について関心も高まるこの時期の生徒に、乳幼児や人生の先輩たちと触れ合ったり、医師や看護師などから生命に関する話を聞く機会をもったりすることなど、自他の生命への尊厳、尊さを深く考えさせ、かけがえのない自他の生命を尊重する心を育成する取組が求められる。人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培っていくことは、豊かな心をはぐくむことの根本に置かれる課題の一つである。

規範意識を育てる

社会生活を送る上で人間としてもつべき最低限の規範意識を確実に身に付けさせるとともに、民主主義社会における法やきまりの意義やそれらを遵守することの意味を理解し、主体的に判断し、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育てる指導が重要である。

社会参画への意欲や態度を身に付ける

地域の人々との人間関係を問い直したり、職場体験活動やボランティア活動などの体験活動を生かしたりするなどして、社会形成に主体的に参画しようとする意欲や態度を身に付けていくことが大切である。

国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付ける

郷土や国ではぐくまれてきた優れた伝統と文化などのよさについて理解を深め、国際的視野に立って、他国の生活習慣や文化を理解するとともに、国際社会の中で独自性をもちながら世界に貢献できる国家の発展に努める日本人として、主体的に生きようとする態度を身に付けていくことが求められる。

中学生の時期は、人生の理想や目的、学習や進路、人間関係などにかかわって、悩みや葛藤等の心の揺れを繰り返しながら人間としての生き方について考えを深めていく。したがって、悩みや葛藤等の思春期の心の揺れ、心理的な側面も含めた人間関係の理解等の課題を積極的に取り上げ、道徳的価値に基づいた人間としての生き方について考えを一層深められるような指導への配慮が必要である。

なお、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などは、生徒が実際の職場や、社会集団、自然とのかかわりの中で自分と向き合い、社会の一員であることを実感する機会を提供し、道徳性の育成に役立つため、総合的な学習の時間や特別活動との関連に配慮する必要がある。